http://f-env.sakura.ne.jp

(府中市市民活動センタープラッツ登録団体)

府中かんきょう市民の会

NPO法人　府中かんきょう市民の会会報
2018年 夏号 7月11日発行 通巻69号
発行人　小西 信生（府中市四谷6-19-20）
TEL 042-405-8524
編集人　葛西 利武

2018　田んぼの学校　開校式・田植え

「第13回田んぼの学校2018／開校式・田植え」が、晴天に恵まれて5月27日㈰朝9:00から開催されました。今年は第2回イネ刈り・ハサかけ、第3回脱こく・モミすり・修了式の3回の開催を予定しています。

例年は真夏の「草取り・生き物さがし」と最後の「収穫祭」を含め5回開催していましたが、熱中症対策、収穫祭の負担軽減もあり、3回に縮小しました。また昨年は、水田皮膚炎予防対策として、田植え作業を断念しましたが今年は水対策として長靴、手袋を着用して実行することにしました。

今年は50組62名の応募があり、41組45名の受講者を決定して通知しましたが2名のキャンセルがあり43名での開校となりました。出席者42名、保護者49名他2名、農工大学先生2名、農工大学生の耕地の会14名、市役所2名、市民の会17名他1名で総勢129名が参加しました。

小西理事長の挨拶

好天にも恵まれ生徒の出足は順調です。受付で長靴の有無、長さを確認します。手袋の手渡し、長靴のない生徒には田植え体験靴（全農クミックス㈱寄贈）の貸出し、足に被せるビニール袋配布等で若干時間がかかり、9時過ぎに開校。小西理事長の挨拶に始まり、環境政策課浦川課長補佐、農工大学大川先生の挨拶が続きます。大川先生からは稲、小麦の説明、稲の起源について話がありました。

その後 、稲の一生、田起こし、代かき、田植え、稲刈り、脱こく、モミすり、精米を説明。田んぼの生きもの説明ではモンシロチョウを呼ぶ紙のチョウ、チョウ飛行機、景色を追いかけるアメンボの話、話の途中でアメンボが空中に飛び出し、感嘆の声があがりました。恒例のピヨピヨさん体操では身体をほぐし、いよいよ待望の田植えです。ピヨピヨさん体操は農工大学生3人がまず前に立ち音頭をとります。つづいて生徒に希望者を募ると元気な生徒3人が手を挙げる。積極的な生徒が多いです。

農工大生によるピヨピヨさん体操

2年ぶりの田植え

2年ぶりの田植えです。生徒が田んぼに入る前にスタッフが田植えの実演をします。2組に分かれ、1組は畔、もう1組は田んぼの中に入り1列に並びます。畦側は等間隔に1列に並ぶのは簡単ですが、田んぼに入る組は田んぼのぬかるみに足を取られ、最初の1歩、2歩は歩くのさえやっとで保護者の力を借り、1列になるまでが一苦労。整列が完了すると一斉に田植え開始。生徒が田植えをし、その後ろで保護者または農工大スタッフが苗を補充します。

一人で4ヵ所植えると一斉に30cm後退し、次の場所に植えます。足がぬかるみから抜けずバランスを崩してしりもちをつく生徒、2、3列植えると「どこまで植えるの？」と泣き言をいう生徒、励ます保護者、「もっと苗を欲しい！」とたくましい生徒、にぎやかな田植え風景です。

代かき

田植えの傍らでは田んぼの凹凸、深みの平準化に大川先生が先頭に立って4人が代かきで汗を流します。田植えも最初は慣れない手つきで時間がかかったが徐々に要領がよくなり、苗の補給が追いつかなくなります。予定より早く終了。田植え後は足洗い、貸し出した体験靴を洗って返却します。

足を洗い終わった生徒はモンシロチョウを呼ぶ紙で作ったチョウ、そのチョウ飛行機に興じます。バケツ稲の説明、バケツ稲用の用土、苗、肥料を配布、次回のプログラムを説明して開校日のプログラムは予定どおり11時30分に終了。次回はイネ刈り・ハサかけ（9月23日）です。

（柿本 正夫）

第8回 わき水まつり(パート2)野外活動

ハケと用水の「生き物探検隊」、バッタ・アメンボづくり、魚の水槽展示、パネル展示など

☆ひにち　2018年 7月21日(土)　22日(日)
☆じかん　10時～16時
☆ところ　市川緑道「あずまや」周辺

① はかせと歩く 生き物探検隊	大平充 農学博士	21日(土)　22日(日) 10:30～12:00
② はかせと歩く 生き物探検隊	高家博成 農学博士	21日(土)　22日(日) 13:30～15:00
③ シュロの葉 バッタづくり	鈴木 潔 名人	21日(土)　22日(日) 随時

①と②の「はかせと歩く」を希望する方は、
・低学年以下は保護者同伴、大人のみも可
・服装は長靴、長袖服
・野外活動のため荒天時中止もあり
・参加費無料

①②の「はかせと歩く」は事前申込み制
担 当　浅田　℡ 090-8806-8165
後 援　府中市公園緑地課

都市農業の可能性を広げる「くにたちはたけんぼ」の新展開

府中かんきょう市民の会のメンバー等8人で、5月8日(火)「くにたちはたけんぼ」を見学し、この農園を運営している小野淳さん(NPO法人くにたち農園の会理事長)からお話を聞いた。

午前11時から現地(国立市谷保)を案内され、12時頃からは「つちのこや※」(やぼろじ内)で食事を摂りながら説明を受け(1000円のお任せでデザート付き)、その後解散。

※つちのこや／田畑とつながる子育て古民家。緑いっぱいの庭、どこか懐かしい畳の広い和室と縁側。谷保の里山風景が広がる。

農業公園の見学

案内人の小野さん(オレンジ色上着)

この農園は約300坪の農地で地主から国立市が借り受け、さらにNPO法人くにたち農園の会が貸付けを受けて運営している。すなわち、民間団体の運営である。

貸し農園、田んぼ(会員制)、森のようちえん、放課後クラブ、馬飼舎、イベント協力のような活用、活動を通して、昨年は年間約7,000人が利用している。小野さんはその実践を通して、都市農業の可能性を広げ、価値を高める活動を展開している。　(伊藤 久雄)

第15回 「身近な水環境の全国一斉調査」に今年も参加して

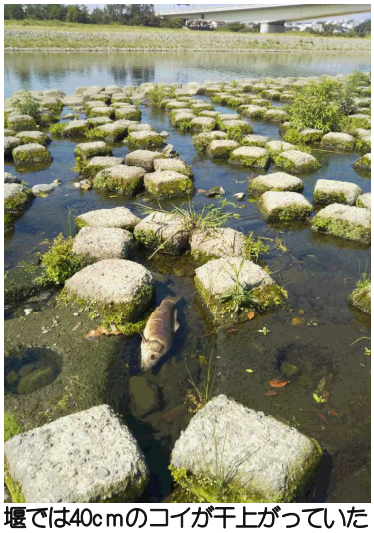
昨年度は、北海道から沖縄県まで758団体が6,124地点を調査した。参加者のべ人数は今年で10万人を突破するようだ。昨年度のCOD水質調査結果は、0～3mg/L未満の地点が31%、3～6mg/L未満の地点が38%、6mg/L以上の地点が31%である。

私たちは毎年府中市に沿った多摩川左岸6地点を調査している。昨年度調べた6地点のうち5地点の水質は6mg/L以上で、うち下水処理水を多摩川に流している調査地点は3箇所ある。全国の調査地点全体から見て悪い方の分類に入るという結果だった。

北多摩一号水再生センター処理水出口付近

15回目の今年は6月3日(日)午前8:30～10:30に実施した。

まず北多摩一号水再生センター処理水出口の調布よりで調査。次に東電の大きな鉄塔電線下付近、郷土の森バーベキュー広場沿いの大丸堰へ。最後に川上から3地点調査したメンバーと合流し、計6地点の様子や調査結果を報告しあった。


堰では40cmのコイが干上がっていた

今年は、雨が降った4日後で川の水量は比較的多く透明度も高かった。水面を跳ねる小魚も見られた。調査結果はほぼ昨年同様だったが下水処理水が出る付近では臭気を感じた。

市内の多くの家庭排水や雨水は下水道管を通って北多摩一号水再生センター(左写真)で処理し、その後多摩川に流している。このあたりの多摩川水は上流からみて最も下水処理水が多い場所と聞く。

多摩川を体感し、水質調査活動をしたい方を目下募集中。さらにきれいな川にするための方策を一緒に考えたい。　(浅田多津子)

第19回 バス見学会　三浦半島「三崎港」と「小網代の森・干潟」をめざして

日　　時	2018年6月8日(金)
集　　合	大國魂神社鳥居前　8:30集合　9:00出発
参加者数	42名
行き先	神奈川県三浦半島、三崎港と小網代の森・干潟 バスは第三京浜―横浜横須賀道路―三浦縦貫道路―国道134号―県道26号
配布資料	①三崎港周辺の案内図②小網代の森これまでの歴史③森の魅力④利用について(県のHPより)
天気模様	快晴ではないが、初夏の行楽日和

バス見学会は今回で19回目を数え、来年当会の20周年を迎えるにあたって、古い歴史ある活動といえる。それだけに参加者に喜ばれ、ためになる見学会をと浅田委員長をはじめ小西、伊藤、片山委員らと場所選定、行動予定などの協議を重ねてきた。私は生ごみ処理施設(埼玉県)を提案したが、見学料、大型バスの駐車場等で断念した。

今回の見学会は、アンケート調査を実施していないが、好評の声を耳にする。そのため、私たち夫婦(妻も参加)の感想を記すこととする。

☆三崎港周辺

「うらり」のテラスから三崎湾を望む

昼食をどこでとるか迷っていたが、産直センター「うらり」のさかな、野菜等の展示と販売館の近くは客が多く、値段が高いと判断して湾の向い側まで歩き、マグロ＋シラス丼を注文する。ほかの客は一人しかいなく、店員さんは親切に接してくれて、初めて生シラスを口にできた。

バス集合時間が迫っているが、食事後に「うらり」の野菜館・さかな館を見てまわる。2階の野菜館のテラスから見る三崎湾の光景が素晴らしい。向いに太平洋に面する城ケ島が見え、日本有数のマグロ水揚げ港、観光船やヨットも見られ、観光地としても有名である。

野菜館では地元三浦市の露地栽培(非ハウス栽培)の農産物が展示され、特に三浦大根が有名で、重いのに土産物として購入した人も見られ、私は果樹のアンズを買った。

☆小網代の森・干潟

見学の主目的である「小網代の森」が一般開放されたのは平成26年である。資料「これまでの歴史」に記載されているように、以前は水田であったが、三浦都市開発計画で市街化区域となり、ゴルフ場計画が持ち上がり、これに反対する市民団体が保全活動しながら、県を動かし、市街化調整区域に変更させた。その後、県、三浦市、公益財団法人かながわトラストみどり財団、NPO法人小網代野外活動調整会議が環境保全活動に関する覚書を締結し、現在の管理運営体制となった。

小網代の森／えのきテラスにて

一緒に参加された元浅間山保存会会長の横山永望さんはこのケースも浅間山と同じで、住民・市民の声と活動が大切だと言われた。現在、横山さんは当会の相談役を務めている。なお、当会の見学会は届け出をし、ガイド料、注意事項、かながわトラストみどり基金への募金などを承知したうえでの実施である。

小網代の森は、三浦半島の先端にある相模湾に面した約70haの森で、中央にある谷に沿って流れる「浦の川」の集水域として、森林、湿地、干潟及び海までが連続して残され、関東地方で唯一の自然環境と言われる。森、川、海の繋がりが必要なアカテガニをはじめとして、希少種を含め、約2,000種の生物が棲んでいる。

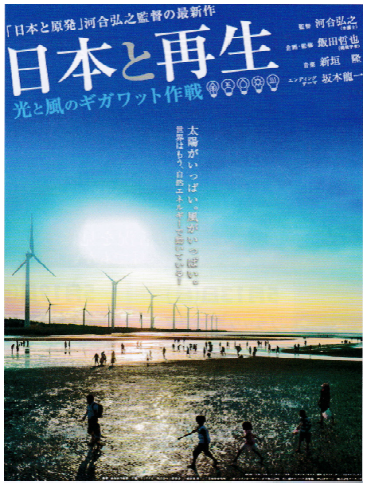
㊤チゴガニ、コメツキガニ、ヤマトオサガニの「カニダンス」イラスト掲示板。ダンスの踊り手はオスだけ。求愛と縄張り活動か？
㊧干潟で見つけた体長約2.5cmのチゴガニ

引橋入口(標高50m)から浦の川に沿って、えのきテラスの1.5kmを35名も歩いた。ちなみに、少し楽な干潟コースは7名が歩いた。その間、植物群がシダ類～ドクダミ～オギ(海岸近く)と変わり、干潟ではカニダンスを見た。ダンスをするのは雄のみで自分の穴を作り、危険が近づくと穴に逃げ込む。残念だったのは、ホタルが最盛期なのに夜までここにいることができないことであった。

見学を終え、疲れた顔ひとつない笑顔の集合写真を撮って帰路についた。府中到着は交通渋滞のため17:00となった。みなさん、ありがとうございました。　(竹田 勇)

ドキュメンタリー映画　「日本と再生」を観る

4年前原発反対運動の弁護士河合弘之氏が「日本と原発」を作った。そこで出された「代替電源をどうする？」という疑問に答えるのが今回の「日本と再生」。映画は5月13日プラッツ、5月19日は東京農工大にて、自然エネルギーを考える会（府中市協働事業）の主催で上映された。



日本政府は執拗に原発の復活を目論んでいるが、同氏は「原発がなくても自然エネルギーで地域も経済も再生できる」との確証を掴むため、世界各地の「再エネ革命」最前線を訪ねる旅に出る。同行は環境学者・飯田哲也氏。ドイツ、デンマーク、アメリカ、中国等の7ヶ国、政府、自治体、NGO、企業等様々な立場で自然エネ開発に携わる人達の話を聞いた。国内でも数多く、地産地消を目指す「ご当地電力」関係者への取材を行った。

ドイツでは2022年まで原発ゼロを掲げ、既に自然エネ比率が30％を超え、隣国への電力輸出を増大させている等自然エネの伸長に自信満々！　米国は軍隊での自然エネ利用へのシフト進展をみせ、また近時数年での太陽光パネル、風力タービンの価格低下・効率向上によって、自然エネの発電コストが電気代を下回るまでになったので、爆発的な増加をみせている。冷暖房設備の省エネ化も著しい進歩！　原発推進国と思われていた中国もFIT導入で自然エネの巨大市場が一気に拡大し、太陽光、風力共今や世界一（原発の電気は3％だけ、もはや原発不要）。太陽光パネル生産の世界シェアー70％強と席巻！

先進各国の開発状況をみれば、多数の異種小規模発電所を連結することで大数法則が働き、高位安定することが事実として示されている。また雇用の創出という点で、自然エネ産業の地元貢献意義は極めて大きく、この分散ネットワークシステムは電力問題を離れても、IOT、AI等と共に新しい社会を作っていく優れた手法である。

風力、太陽光を合わせた世界の発電量は、すでに現存540基の原発発電量の2倍の規模に達している。原発でもなく、化石燃料でもないクリーンで安価なエネルギーで世界はもう動いている。日本は、送電網の仕組み替え等国が戦略的方針を立てリードしてゆくことが喫緊必須の必要事と強く感じた。

映像中、小泉純一郎元首相の「聞かされていた原発の安全・安心はウソであった。原発ゼロで日本を発展させていこう」。飯館電力（自然エネルギー発電事業）の小林稔社長の「仕事を残しておけば、いずれ次世代が何か考えてくれるだろう」との2話が印象に残った。ちなみに、福島県は2040年までに自然エネ100％が目標。（植松 俊明）

第15回　西府崖線保全活動／春の清掃活動

（府中市「まちなかきらら」事業登録）

5月19日㈯午前10時から11時まで、西府崖線下に沿って西は大山道から東はカッパ池公園までと、西府文化センター付近のハケ上の計1km範囲の清掃活動を行なった。

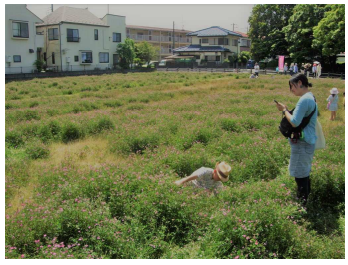
清掃終了後の記念写真

私たち会員とシルバー人材センター、㈱KSKの協力で計27名の参加があった。ここ数年来シルバー人材センターや㈱KSKの毎回の参加があることは重いゴミの回収時にとても心強い。今回は、大きなゴミ袋計18袋とバッテリー等の粗大ゴミを回収した。（写真㊦）

清掃活動を始めた8年前には様々な粗大ゴミが捨てられていたが、ここ数年は、春は草・枝類の処理、秋は落ち葉掃きが主になっている。その後5月23日㈬には、公園緑地課にエリア内の点検報告をし、連携不足などの課題を共有し解決に向けた話し合いをもった。（浅田 多津子）

稲城市 大丸用水レンゲ祭り 見学記

「大丸（オオマル）用水レンゲ祭り」は、田んぼに敷きつめたような一面のレンゲ畑で花や音楽・飲食を楽しんだり、さまざまな体験イベントがあった。稲城市大丸251番地での4月29日㈰ 10:00～14:20のプログラムは以下。☆広場でのイベント／踊り、童謡、みかぐら、和太鼓演奏、よさこいソーラン等 ☆広場模擬店／トン汁、飲料、コロッケサンド、やきとり、はちみつ、焼きそば等 ☆レンゲ畑／みつばちの巣箱見学、はちみつ採取体験等　☆大丸用水／流し雛体験



大丸用水レンゲ祭り2景／㊧レンゲ畑一面　㊨大丸用水

これを見て、当会の前理事長梅沢みどりさんを誘ってレンゲ祭りに駆けつけた。当会は押立町の田んぼで15年も続けたレンゲ祭りを終了した（会報2015年夏号／梅沢みどり記）。その理由は ①レンゲの花が咲かない、少ない（連作障害、害虫の発生） ②スタッフの高齢化であった。

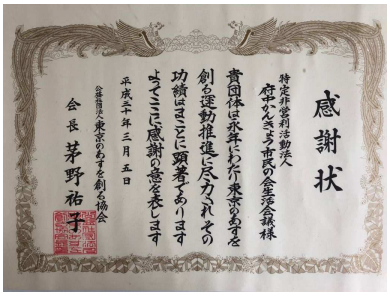
祭りの担当市職員にレンゲ栽培について聞いてみた。種子は業者から購入し、指導を受けているとの返答だった。現実のレンゲは害虫の食害跡があるものの、写真のように一面に生育開花している。簡単だが報告する。（竹田 勇）

シンポジウムも開催　東京の明日を創る協会　感謝状授与

感謝状授与

「東京のあすを創る協会」から感謝状を受領しました。平成29年度東京のあすを創る運動推進大会が3月5日（月）13:00～16:00まで東京都庁第一本庁舎5階大会議室で開催されました。当会が東京の明日を創る協会に加入して10周年での表彰です。

当日は、永年功労団体3団体、個人表彰8人、団体感謝状1団体（府中かんきょう市民の会）、個人感謝状7名等7団体17名が表彰を受けました。



㊤感謝状を授与される柿本 正夫氏
㊦感謝状

東京のあすを創る協会は昭和32年発足、都民の一人ひとりが主役になって、安全で安心して暮らせる明日の地域社会づくりをめざし、①教育②環境③省資源、省エネルギーに関すること④青少年の健全な発達に関すること⑤高齢者福祉に関すること⑥防災問題に関することの幅広い分野に活動しています。

今回は、団体では小平市・緑とくらしを考える会、小平市子育てサポートきらら生活会議、個人では国立市くにたち生活学校、多摩市多摩生活学校等が表彰を受けました。

シンポジウム　東京オリンピック・パラリンピックをもっと知ろう
～次代を担う子供たちに何を残し、何を伝えるか～

表彰状・感謝状授与に続いてシンポジウム「東京オリンピック・パラリンピックをもっと知ろう」副題～次代を担う子供たちに何を残し、何を伝えるか～があり、最初に東京都教育委員会委員の柔道世界選手権女性初の金メダリスト、ソウルオリンピック銅メダリストの山口香氏から「オリンピック・パラリンピックを契機に成長を願う」のテーマで基調講演がありました。

講演する山口 香氏

スポーツを通して何を伝えたいのか、スポーツの意味や価値はについてゴルフ、テニス、ラグビーを例にあげ、ゴルフは自分を律する力、テニスは自分で立つ力、ラグビーは社会の仕組みを学ぶことができると熱弁をふるいました。

その後、NHK解説委員西川龍一氏をコーディネーターに、パネリストにリオデジャネイロパラリンピック女子テニス日本代表の二條実穂氏、東京都障害者スポーツ協会事務局長の菊地和則氏、東京都教育庁指導部オリンピック・パラリンピック教育指導担当課長の荒川元邦氏、山口香氏を交え、パネルディスカッションが行われました。

子供たちが夢を持ち、夢を実現できる東京大会、すべての都民や子供たちがオリンピック・パラリンピックに関わり、成功に導く一翼を担える東京大会を実現しよう、と熱く議論されました。　（柿本 正夫）

パネルディスカッション
㊧コーディネーター 西川 龍一氏

受賞者の記念写真

NPO法人 府中かんきょう市民の会 2018年度（平成30年）役員体制

2018年度（平成30年）定期総会が4月11日㈬に開催された。総会では、以下の役員が選出された。任期は2年。

理事長	小西 信生
副理事長（兼事務局長）	柿本 正夫
理　事	村崎 啓二
理　事	浅田 多津子
理　事	西宮 幸一
理　事	伊藤 久雄
監　事	前川 浩子
監　事	葛西 利武
相談役	横山 永望
相談役	竹内 章

ハケの自然観察

府中市立第五小学校で自然環境学習を実施

6月4日(月)、6月18日(月)、府中市立第五小学校3年生108人を対象に、総合学習の時間に環境学習を行ないました。校長先生からの依頼で行なうもので、昨年(2017)10月に第1回を実施し、今回が2回目です。

竹内講師(左)による6月4日のオリエンテーション(事前学習)

事前学習は全体で、フィールドワークはテーマ別に実施

6月4日は1時限目に、オリエンテーション・事前学習として、3年生3クラス同時に、小学校の体育館で授業を行ないました。

授業は、崖線の地形・自然についての基礎的な知識を得た上で、子どもたちの関心に応じて「樹木」「草花」「昆虫」の各班に分かれて校外学習(フィールドワーク)を行なうための情報提供が目的です。

6月18日は3～4時限目に、学校を出て班別に行ないました。班編成は子どもたちが関心を持って希望した対象(樹木・草花・虫)を考慮して、9グループ21班が編成されました。

当初は11日に予定していましたが、11日の台風5号の接近による大雨のため延期し、18日は梅雨の合間の曇りと霧雨の中での学習になりました。

授業を受ける児童108人の他に、当会の会員14人、近隣に住む森林インストラクター1人、PTA1人、そして3年生の担任3人、計19人の大人が自然環境の説明、交通安全の確保など、それぞれの役割を分担しました。

ハケでの環境学習 その1 中央は葛西講師

ハケでの環境学習 その2 左の青シャツは遠藤講師 森林インストラクター。右は見守り役PTAの熊崎さん。右から2人目は大西先生。中央はビデオ撮影の渡辺さん

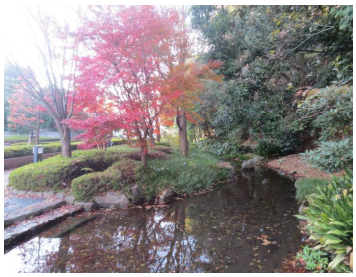
崖線など学校周辺の自然環境

共通学習テーマとして「崖線(ハケ)を知る、ハケの中にある湧水の存在と状況を知り、実際に歩いて体感する」ことがあります。

各班とも共通テーマを理解した上で、樹木班はハケの回りを歩いて、樹木の状況(葉・樹皮など)を観察し、当会が設置した樹木のネームプレートの名前を見て回りました。

草花班は「御嶽塚公園、花の公園、小学校外側南西の空地」をそれぞれ班別に野草を観察しました。

昆虫班は小学校の中の池を含む、昆虫のいそうなところを虫取り網と虫かごを持って探して回りました。



あずまや前水辺。昨年6月、五小の6年生がムネクリイロボタルを発見

キツネノカミソリ

西府崖線と第五小学校と府中かんきょう市民の会

NPO法人府中かんきょう市民の会は、これまで8年以上にわたって西府町緑地・本宿町緑地を含む西府崖線を活動拠点の一つとして、緑地の清掃、湧水の調査や、生態系調査、魚や虫などを観察できる湧水まつりなどの活動をしています。

また、東京都では絶滅危惧種の一つであるキツネノカミソリも、当会会員のご夫妻によって緑地内で発見され、密やかに毎年花を咲かせている、など当会と西府崖線緑地との関係は深く、自然豊かな府中市の協働事例の一つともされています。

今後の府中市内での環境学習がゴミ処理ばかりでなく、自然環境などにも広がり、第五小学校を含む市内の公立22小学校で容易に継続して行える状況になることで、子どもたちの故郷の記憶と関心を深めることになることを期待したいものです。　(小西 信生)